

平成 29・30 年度 土木学会複合構造委員会 第 5 回幹事会議事録

日 時：平成 30 年 1 月 26 日（金）14:00～17:30

場 所：土木学会 C 会議室

出席者：西崎委員長，下村副委員長，溝江幹事長，大久保幹事，葛西幹事，川端幹事，北根幹事，斉藤(成)幹事，齋藤(隆)幹事，平幹事，滝本幹事，中村幹事，仁平幹事，橋本幹事，広瀬幹事，牧幹事，松本幹事，杉岡事務局

配布資料：

- 幹 5-0 平成 29・30 年度複合構造委員会第 5 回幹事会議事次第
- 幹 5-1 平成 29・30 年度複合構造委員会第 4 回幹事会議事録（案）
- 幹 5-2 平成 29・30 年度複合構造委員会第 2 回委員会議事録（案）
- 幹 5-3-1 平成 30 年度重点研究課題（研究助成金）について
- 幹 5-3-2～4 重点研究課題（案）①～③：企画 WG 案
- 幹 5-3-5 重点研究課題募集案内
- 幹 5-3-6 重点研究課題申請案（構造工学委員会）
- 幹 5-4 平成 29 年度委員会予算執行状況
- 幹 5-5 会長との意見交換会の報告
- 幹 5-6 平成 30 年度年次学術講演会・研究討論会案
- 幹 5-7 設立趣意書案（既設合成桁更新）
- 幹 5-8 第 7 回 FRP 複合構造・橋梁に関するシンポジウム
- 幹 5-9 土木学会論文集 A1 特集号：複合構造
- 幹 5-10 出版関連報告
- 幹 5-11-1 基礎からわかる複合構造 英語版目次(案)
- 幹 5-11-2 参考：英文版 複合構造物の性能照査指針(案)
- 幹 5-12 e-ラーニング
- 幹 5-13 複合構造委員会小委員会一覧
- 幹 5-14 H101 複合構造標準示方書小委員会
- 幹 5-15-1 H106 FRP による補修・補強指針作成小委員会
- 幹 5-15-2 H106 FRP 接着による補修・補強指針（案）
- 幹 5-15-3 H106 複合構造委員会幹事会による査読への対応報告
- 幹 5-15-4 H106 付属資料 FRP と鋼材との接着試験方法（案）
- 幹 5-15-5 H106 付属資料 鋼板と当て板の接着接合部における強度の評価方法（案）
- 幹 5-15-6 H106 JSCE-E 540 シリーズと ISO の相違と整合方向
- 幹 5-16 H151 複合構造物の疲労照査法に関する調査研究小委員会
- 幹 5-17 （欠番）
- 幹 5-18 H215 複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響に関する研究小委員会
- 幹 5-19 H216 複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会
- 幹 5-20 （欠番）
- 幹 5-21 （欠番）
- 幹 5-22-1～2 次回幹事会
- 幹 5-23-1～2 H213 構造物の更新・改築技術に関する研究小委員会 地方講習会 会告，行事計画書
- 幹 5-24 温故知新セミナーについて

議事内容：

1. 委員長挨拶

西崎委員長より、幹事会開催にあたって挨拶がなされた。

2. 複合構造委員会第4回幹事会議事録案確認（資料 幹 5-1）

齋藤(隆)幹事より、資料に沿って説明がなされ、議事録として承認された。ただし、以下の2点を修正する。

- ・(3) H106 小委員会報告の中で、日付 1/26→1/23 に修正する。
- ・「その他」の番号を 18→15 に修正する。

3. 複合構造委員会第2回委員会議事録案確認（資料 幹 5-2）

斉藤(成)幹事より、資料に沿って説明がなされ、議事録として了承された。議事録案は、斉藤幹事より、複合構造委員会のメーリングリストを通じて配信することとなった。

4. 平成30年度重点研究課題（研究助成金）（資料 幹 5-3-1～5）

齋藤(隆)幹事より、資料に沿って説明がなされ、審議を行った。

- ・企画WGで検討した結果、4つのテーマ（①グリーンインフラ（環境分野との連携）、②検査レベル向上のための可視化システム、③地域マイスター制度の創設、④300年プロジェクトの実施）について提案があった。
- ・審査においては、技術、専門的なテーマよりも包括的なテーマで、目的やポイントを押さえた内容が審査員の賛同を得られやすいとの意見があった。
- ・議論の結果、グレーインフラから「グリーンインフラ」へアプローチすることを強調すれば、インパクトがあるだろうとの見解から、グレーインフラとグリーンインフラの融合（ハイブリッド）をテーマとして申請することとなった。環境分野との連携を協議する必要があるが、各機関の部署内の人脈を通じて調整することとなった。

溝江幹事長より、資料 幹 5-3-6 に沿って説明がなされ、審議を行った。

- ・構造工学委員会からの重点研究課題（タイトル案：「若手技術者を中心とした次世代の道路橋床版維持管理体系構築への取組」）への連携について複合構造委員会へ打診があった。
- ・連携について了承され、複合構造委員会からは、研究体制のメンバーとして、大西委員、高橋委員を推薦することとなり、溝江幹事長より、両委員に了解を得ることとなった。

5. 平成29年度予算執行状況（資料 幹 5-4）

溝江幹事長より、資料に沿って説明があり、予算執行状況について確認がなされた。

- ・支出予定は論文集小委員会の20万円と示方書小委員会の8万円であり、残額（約37万円）については、3月の幹事会の旅費に充てることとなった。

6. 会長との意見交換会の報告（資料 幹 5-5）

西崎委員長より、資料に沿って説明があり、学会のスタンス、構造系3委員会の意見交換会について、説明がなされた。

- ・会長より「学会の考えと個人の考えを明確に区別してほしい」とのことであった。例えば、プレス発表の場合、どの立場（学会委員会か、個人か）での発信なのかを意識する必要がある。
- ・会長から、一般市民、国民への広報についても取り組んでほしいとのことであった。一般向けのセミナー等の企画を検討することも考えられる。
- ・I分野の構造系3委員会（構造工学、鋼構造、複合構造）の意見交換会について、横浜国立大学藤野先生から打診があり、各委員会の代表が集まって自由討議することとなった。

7. 平成 30 年度全国大会・研究討論会（資料 幹 5-6）

溝江幹事長より、資料に沿って説明があった。

- ・ H216 複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会より、研究討論会の提案があった。
- ・ 研究討論会は、「膨大な点検データと性能評価の齟齬をどうする！」のタイトルで実施することが承認され、企画案にしたがって進めていただくことになった。
- ・ 研究討論会の委員会枠は、北海道大会（2018 年度）、四国大会（2019 年度）のどちらか一つであるが、希望は北海道大会で申請する。学会より調整の依頼があった場合には、別途検討する。

8. 新規小委員会（既設合成桁更新）の設立（資料 幹 5-7）

大久保幹事より、資料に沿って説明があり、設立趣意書について、審議がなされた。

- ・ 複合構造委員会第 2 回委員会での指摘を受けて、委員会名、趣旨説明の修正を行ったことの説明がなされ、設立趣意書について了承された。
- ・ 2 月中に複合構造委員会でメール審議を行う。承認後の予定は、会告に掲載して委員公募を行い、8 月に活動開始とのことであった。

9. 第 7 回 FRP 複合構造・橋梁に関するシンポジウム（資料 幹 5-8）

大久保幹事より、資料に沿って説明があり、審議がなされた。

- ・ 特集号に関する記載内容については、論文集特集号編集小委員会に確認を依頼する。
- ・ 4 月号の会告受付締切り（2/10）に間に合うように、会告の申請書を学会へ提出する。
- ・ 推薦 WG の主査は、葛西幹事に代わり、中村幹事に依頼することとなった。
- ・ シンポジウムの企画については、建築分野との合同パネルディスカッション等を検討中であり、松本(幸)委員に日本建築学会への打診を依頼中である。

10. 土木学会論文集 A1 特集号（複合構造論文集）状況報告（資料 幹 5-9）

溝江幹事長より、資料に沿って説明がなされた。

- ・ 1/27 に編集小委員会があり、原稿を受け付けた 10 編について登載の可否を審議するとのことであった。2 編の展望論文、1 編の委員会報告が掲載される予定とのことであった。
- ・ 編集小委員会の次年度予算（50 万円）が確認され、了承された。

11. 出版関係報告（資料 幹 5-10）

大久保幹事より、資料に沿って報告がなされた。

- ・ 出版物販売状況のリストに、「基礎からわかる複合構造」、「複合構造物の耐荷メカニズム」が加わっている。
- ・ 複合構造標準示方書の販売は、その後、伸びていないが、原価回収部数までもう少しである。示方書小委員会委員への配布を想定して、H101 小委員会の残りの予算で、3/20 以降に数セット購入することとなった。

12. 書籍英訳化（資料 幹 5-11-1～2）

溝江幹事長より、資料に沿って説明がなされた。

- ・ 英文化が必要な数量は、合計で 90 頁とのことであった。
- ・ 複合構造物の性能照査指針(案)の英文版について、当時の執筆担当の調査結果が示され、英文化の作業体制について議論した。
- ・ 当時の編集者の一人である、中村(俊)顧問（東海大学）に、進め方等を含め、一度相談することとなり、継続審議することとなった。

13. e-ラーニング（資料 幹 5-12）

中村幹事より、資料に沿って、土木学会、関連委員会の継続教育の取組み状況、e-ラーニングの課題、複合構造委員会で考えられるテーマ案について、説明がなされた。

- ・初学者、実務者向けのテーマ案は示されているが、一般(市民・子供)向けのプログラムもあるとよいとの意見があった。
- ・講習会の録画の配信とe-ラーニングは、対象や性質が異なるので、切り分けて考えるのがよい。
- ・複合構造委員会内に継続教育小委員会を設立するかどうか、検討体制も含め、継続審議とする。

14. 小委員会報告審議（資料 幹 5-13）

(1) H101 複合構造標準示方書小委員会（資料 幹 5-14）

斉藤(成)幹事より、資料に沿って、活動状況について報告がなされた。

- ・全体構成と各編の作業状況の確認のための全体委員会を3月に開催する予定で、各WGが活動している。

(2) H106 FRPによる構造物の補修・補強指針作成小委員会（資料 幹 5-15-1～6）

中村幹事より、資料に沿って説明がなされた。

- ・複合構造委員会幹事会査読への対応状況について報告があり、修正された原稿が提出された。新試験法（2件）、改訂が必要な試験法（1件）について、西崎委員長（材料・試験法WG主査）より、資料 幹 5-13-4～6に沿って、説明がなされ、新試験法の付属資料への掲載等について、審議依頼があった。
- ・新試験法、改訂が必要な試験法について、その試験法の根拠や妥当性を示す試験結果の報告を合わせて提示し、複合構造委員会幹事会でメール審議することとなった。
- ・複合構造委員会、コンクリート委員会へは、指針(案)の原稿の意見照会を進めることとなった。新試験法の付属資料については、幹事会査読の終了後に、他の付属資料を含めて、複合構造委員会へ意見照会することとなった。
- ・コンクリート委員会で作成された規準の改訂の手続きは、コンクリート委員会内の規準委員会で審議して、常任委員会で決議する流れであるため、改訂に関する説明用資料を提出して、試験法の改訂を依頼することとなった。
- ・コンクリート委員会への意見照会は、指針(案)のみを意見照会することとなった。コンクリート委員会幹事長の小林孝一先生（岐阜大学）へ斉藤(成)幹事が仲介して、依頼することとなった。

(3) H151 複合構造物の疲労照査法に関する調査研究小委員会（資料 幹 5-16）

溝江幹事長より、資料に沿って説明がなされた。

- ・委員の追加（阪神高速道路(株) 高田 佳彦氏）について提案があり、了承された。複合構造委員会内でメール審議する。

(4) H214 維持管理を考慮した複合構造の防水・排水に関する調査研究小委員会

溝江幹事長より、活動状況について報告がなされた。

- ・年度はじめに予算執行の予定（沖縄出張）があるとの報告があった。

(5) H215 複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響に関する研究小委員会（資料 幹 5-18）

下村副委員長（小委員会委員長）より、資料に沿って説明がなされた。

- ・2018年10月頃に報告会を想定していること、報告書（PDF形式も検討中）は出版委員会を通さないうで発刊する予定とのことであった。

- ・2期目を行うことを検討中との報告があった。

(6) H216 複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会（資料 幹 5-19）

溝江幹事長より、資料に沿って説明がなされた。

- ・ブラインド性能評価を実施する予定であり、現在、詳細を詰めているとの報告があった。

(7) H217 コンクリート充填鋼管部材の活用に関する調査研究小委員会

溝江幹事長より、活動状況について報告がなされた。

- ・2/6 に第4回小委員会を開催する予定であること、WG 分けを行って、今後は WG を中心に活動するとのことであった。

(8) H218FRP 複合構造の設計・維持管理に関する調査研究小委員会

西崎委員長（小委員会委員長）より、活動状況について報告がなされた。

- ・WG 活動を進めているところであり、3/28 に小委員会を開催する予定との報告があった。

15. 次回幹事会（資料 幹 5-22-1～2）

溝江幹事長より、次回幹事会の日程調査の結果について、報告がなされた。

- ・次回幹事会の日程調整の結果、最も参加が見込める、3/16、3/17 に開催することとなった。
- ・旅費（交通費）については、予算の都合上、不支給とすることが確認された。

16. その他

(1) H213 構造物の更新・改築技術に関する研究小委員会 地方講習会（資料 幹 5-23-1～2）

滝本幹事より、資料に沿って、H213 の地方講習会の開催について、説明がなされた。

- ・大西委員の調整により、盛岡市で、「構造物の更新・改築 ープロセスの紐解きー」の地方講習会を5月25日（金）13:00～17:00 で開催することとなった。
- ・すでに報告書は発刊されているので、参加費（5000 円）とテキスト代（3000 円）は別々に分ける。
- ・4月号の会告受付締切り（2/10）に間に合うように、会告の申請書を学会へ提出する。
- ・CPD の申請を行う。
- ・講師は前回の担当者に、挨拶は西崎委員長に依頼することとなった。

(2) 温故知新セミナーについて（資料 幹 5-24）

齋藤（隆）幹事より、資料に沿って温故知新セミナーについて、説明がなされた。

- ・企画 WG から、セミナーの講師は、複合構造委員会の顧問、歴代委員長（歴代幹事長を含む）に依頼する案が示され、了承された。
- ・セミナーは、不定期ではなく、定例行事として実施することとなった。
- ・セミナーの参加対象（若手の集客）、講師（1回の人数、2名か1名か、分野（鋼・コンクリート）のバランス等）については、他の委員会の開催状況を踏まえて、さらに検討することとなった。
- ・7月にセミナーを開催する予定とすると、3月の幹事会で講師を決める必要があるため、まずは、講師の選定（打診を含む）を進めることとなった。

以上
（記録・文責：中村）